



2012年1月18日

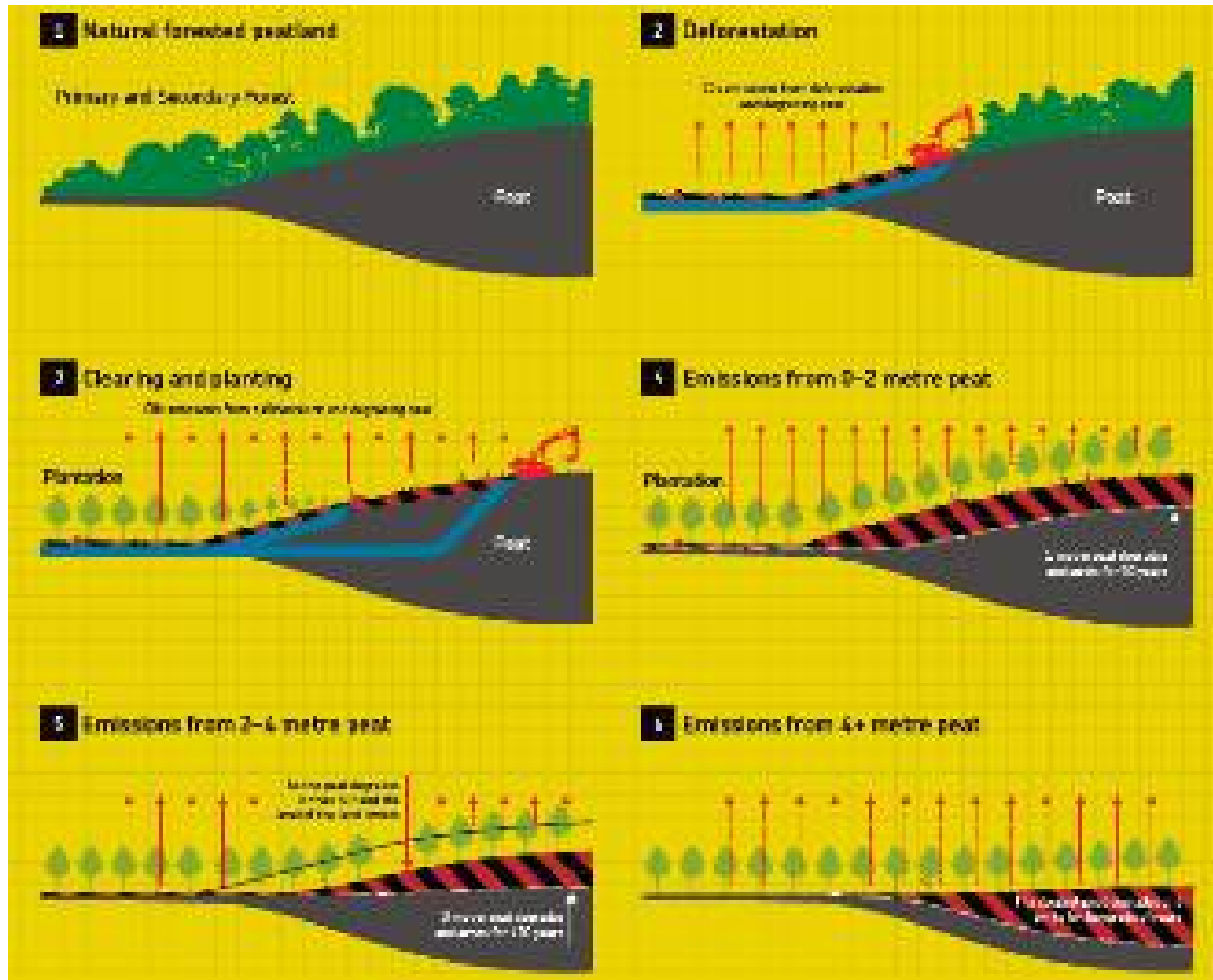
東南アジアでは  
「食べられる森」の危機

国際環境NGO FoE Japan

満田 夏花



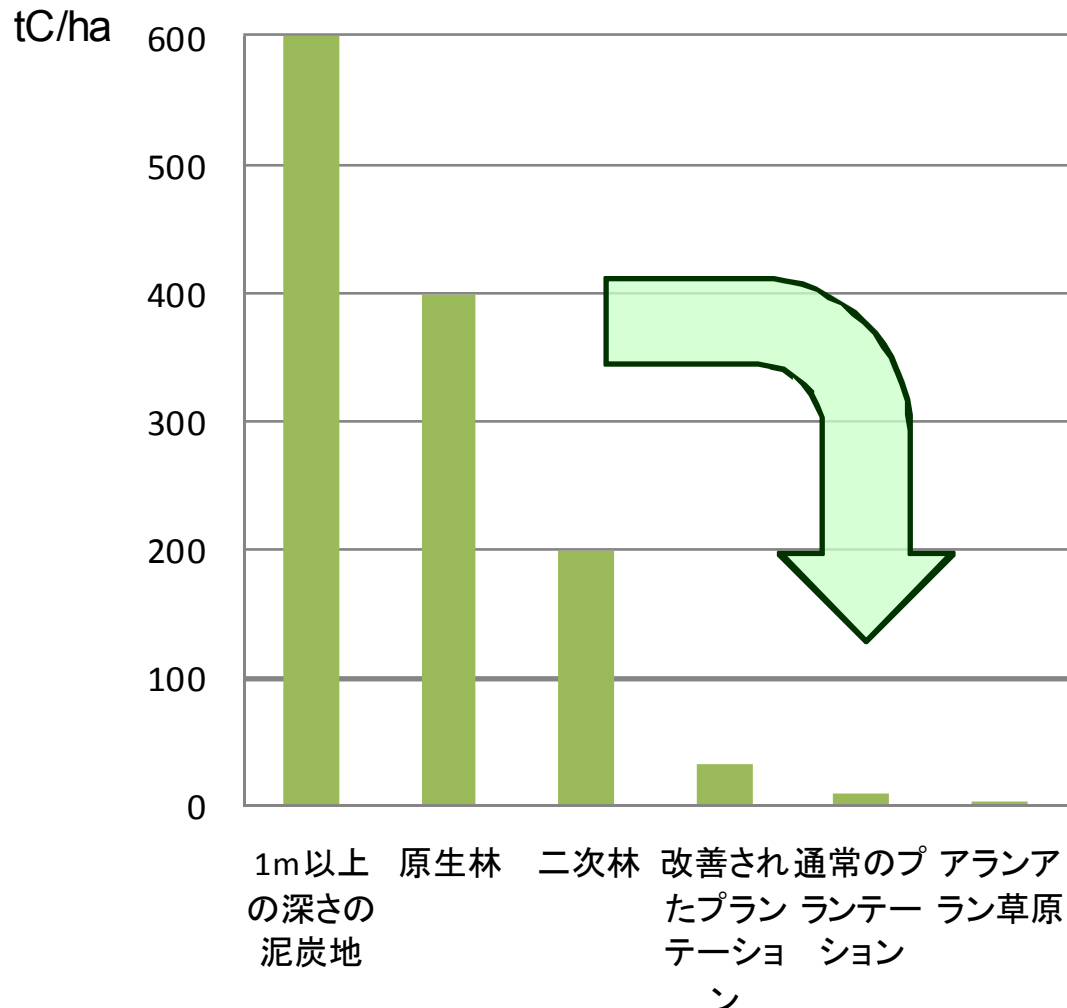
# 泥炭地が開発されていくプロセス




泥炭湿地林を伐採・排水  
→表土の乾燥  
→泥炭の分解  
→CO<sub>2</sub>の発生  
→水位の低下  
→泥炭の分解  
→CO<sub>2</sub>の発生  
さらなるCO<sub>2</sub>の発生が数百年続く

「3m以上の泥炭開発は禁止」←周辺部を開発すると泥炭は薄くなる

# 異なる土地利用における単位面積あたりの炭素ストック（インドネシア）



出典: Greenpeace International. 2010. REDD ALERT! Protection Money



# 「バイヤー」も批判の対象に



How Sinar Mas is expanding its

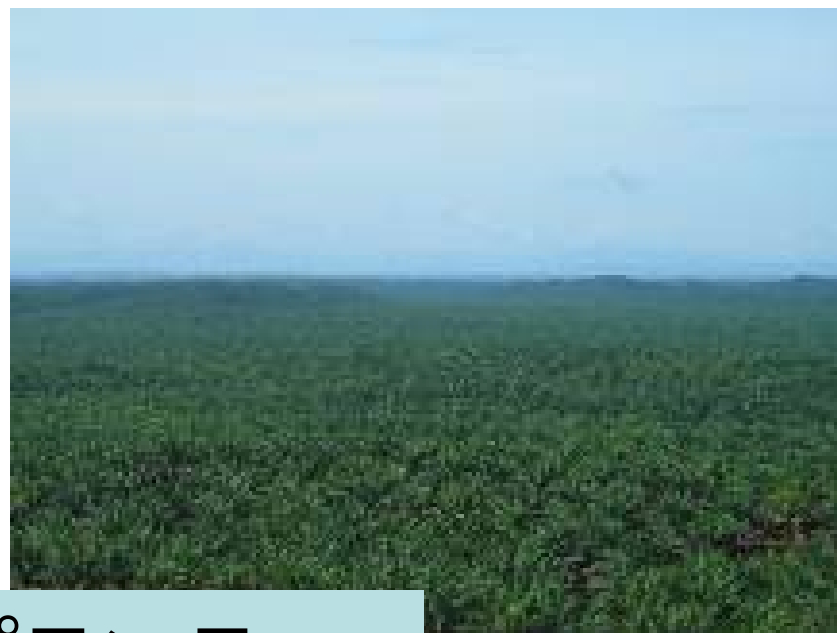
# EMPIRES OF DESTRUCTION



GREENPEACE



GREENPEACE



アブラヤシ・プランテー  
ション→パーム油  
→Kitkat





天然林を破壊して造成された植林→コピー用紙





# スマトラの天然林はどこへ？

- 天然林を伐採して、植林へ転換
- 紙の多くは日本にも輸出されている
- APP／April社の破壊的な施業への国際的な批判
- リコー、富士通ゼロックス、オフィス・デポなどは調達中止
- アスクル株式会社、伊藤忠紙パルプ株式会社、伊藤忠商事株式会社（APPジャパンへ出資）、コクヨ株式会社、大王製紙株式会社、丸紅株式会社（WWF調査をもとに、RANがアップデート）
- 「植林だから大丈夫」？

植林は、自然林の皆伐を行った跡地に行っている

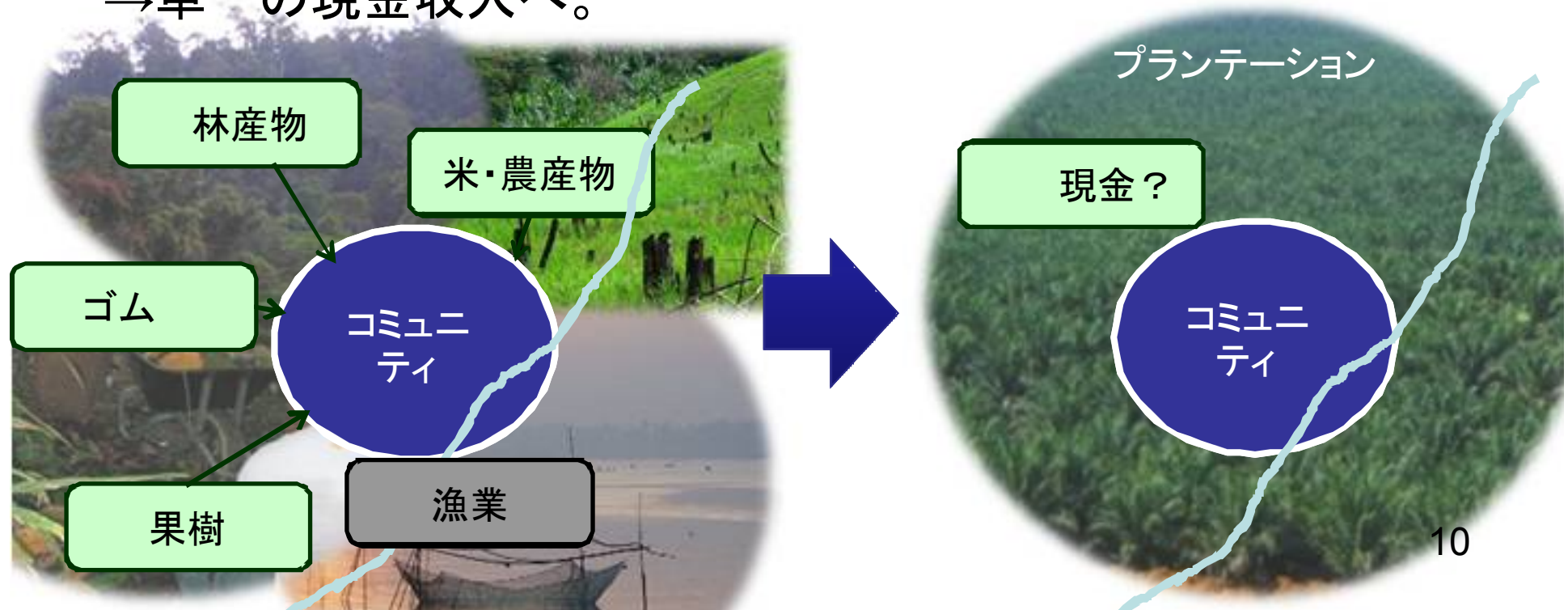
これらのコピー用紙は、APP社コピー用紙、「Paper One」などの銘柄、あるいはブランド名なしで、量販店、通販などで販売されている

# コミュニティによる多様な土地利用

## ■ 慣習的なコミュニティの土地・村人が利用している森林の喪失

＝複合的生計手段(例:米、ゴム、非木材林産物、小規模農業、漁業)の喪失

→単一の現金収入へ。



# 食べられる森



ラオス北部のウドムサイ県の上岳部にあるカム民族の村では、人々は焼き畑による陸稲の栽培を生業としている。ここでは、平均7～8年前に焼畑に利用した二次林を伐採し、火を入れ陸稲を植えるということを繰り返している。収穫を終えるとその焼き畑であった場所は数年間放置されることとなり、1年もたてば背の高さほどの草が生い茂ってくる。やがて、そこはタケノコなどが取れるようになる。

©東智美／メコン・ウォッチ



# 人々の生物多様性

- 発展途上国：農村、山岳部の人々は、森林、河川に依存した暮らし
- 森や川：食糧庫、薬箱、倉庫



- これらの地元経済は、GNPにカウントされない
- 貧困削減を目的とした開発によって破壊される生態系→地元の暮らしや経済の変貌へ